



自然のかたち 人工のかたち



大谷 美沙都 OHTANI Misato

東京大学 大学院新領域創成科学研究科
先端生命科学専攻 准教授



SATO Jun **佐藤 淳**

東京大学 大学院新領域創成科学研究科
社会文化環境学専攻 准教授

<コーディネータ> **福永 真弓** 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授

<グラフィックレコーディング> **佐久間 彩記** / **松本 花澄** グラフィックカタリスト・ピオトーブ

日時：2023年12月26日（火）14:00-15:30

参加：オンライン（申込：<https://forms.gle/fbfuXgoetz8XSGtz6>）



自然のかたち、人工のかたち

種から芽吹いた植物は、環境に応じて、また環境を変えながら、みずからの形態を適応させ、ある形をつくります。わたしたちは自発的な植物の形をつくる力やその形を「自然」と呼んできました。なぜ、そのような形になるのか。形態学が追究してきた問いは、生物学の発展と共に遺伝子レベルで探索され、今では、複雑な形の発生のメカニズムが解き明かされつつ、そのメカニズムを生かした新しい「自然」のデザインへと結実しつつあります。

他方でわたしたちは、自然の形を模倣することから始めながら、人工的な形を生み出し、自然の形や機能を代替させ、社会をつくる上で自然よりも優れたものとして、直線や円で出来た人工物で世界を覆ってきました。直線と円という形を中心に発展し、こうした人工物の世界を支えてきた幾何学と力学の新しい試みは、再び「自然」の形に近づきつつあります。模倣ではなく、人工的な形を突き詰めた先に、「自然」に近づくデザインへと向かいつつあります。

お二人の研究はお互いに交差しながら、「かたち」を決め導くものとは何か、その「自然性」とは何か、ひるがえって、「人工的」であるとはどのようなことか、というきわめて根本的な問いの探求に結びついています。お二人の対話から、自然をつくる時代における、人工と自然の新しい定義が見えてくると同時に、両者が歴史的に帯びてきた倫理の形とその現代的課題が浮かび上がってきます。

プログラム（敬称略）

オープニング	福永真弓
お話1	大谷美沙都
お話2	佐藤淳
対話	大谷美沙都 x 佐藤淳 (コーディネータ：福永真弓)
まとめ	福永真弓



過去の開催情報、動画、グラフィックレコーディングはウェブサイトからご覧いただけます。

rinri.edu.k.u-tokyo.ac.jp

